

科目名		担当教員	
福祉心理学演習		中村 恵子	
科目コード	単位数	履修方法	配当年次
FP5571	2	SR (講義)	4 年以上
履修登録条件	受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。		



※担当教員によって演習の内容がまったく異なります。『With』の案内に従い、希望教員のスクーリング予備登録・受講申込みをしてください。

※中村先生と山口先生の演習を、1 年に 1 クラスのみ、交互に開講する予定です。2025 年度は山口先生の演習です。

※いずれか 1 名の教員の演習しか受講できません。

※社会福祉学科の方は履修登録・受講できません。

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

担当教員	内 容
中村恵子先生	職場の問題解決演習・グループスーパービジョン
山口奈緒美先生	文献講読（社会心理学領域）

科目の概要

■科目の内容

目標達成的な相談支援を提供するためには、支援者のケース・フォーミュレーションの作成力が問われます。ケース・フォーミュレーションとは問題解決の公式化のことで、①支援目標、②アセスメント（問題分析：問題の悪循環についての要因および構造の明確化）、③支援方針から成り立ちます。支援者が描くケース・フォーミュレーションが明瞭で的確であるほど問題解決は効率的に図られ、逆にその内容が曖昧で的外れであるほど問題解決が遠のきます。

そこで、本演習では事例を用いてグループスーパービジョンを行い、スーパーバイザーとともに事例を読み解き、ケース・フォーミュレーションを作成します。

そのため、受講生に事例の提供を募集します。事例提供者は、スーパーバイザーとともに支援プロセスにおける課題を整理し、自分の事例についてのケース・フォーミュレーションを作成することができます。

なお、本演習の特徴はリアルな事例検討にあります。事例はプライバシーを守るため、加工して抽象化させますが、受講生には授業内守秘の厳守を前提にした参加が求められます。

■到達目標

- 1) 事例について、何が問題を悪循環させているのか説明することができる。
- 2) 問題解決のための支援目標を設定することができる。
- 3) 問題解決のためのアクションプランを策定できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 80%＋スクーリング評価 20%（事例提供者には評価を加点します）

■教科書・参考図書

【教科書】

特に使用しません。※配本はありません。

【参考図書】

中村恵子著『認知行動療法のケースフォーミュレーションとストラテジー』ナカニシヤ出版、2023 年

スクーリング

■スクーリング受講条件

- 1) 受講希望者は期日までに履修登録をし、「福祉心理学演習」予備登録をメールで行ってください。
予備登録は下記のことを記載してメール ua@tfu.ac.jp へ送信してください。
①「福祉心理学演習」2026 年度受講希望 ②学籍番号 ③氏名
- 2) 「TFU オンデマンド」<https://web.netrecorder.jp/tfu/> が利用できる環境にあること。
- 3) 予備登録締切日までに、90 単位以上の単位修得をしていること。
- 4) 予備登録締切日までに、1 単位めレポートを提出していること。
- 5) 予備登録締切日までに、下記の学習をしていること。

科目名	履修方法	単位修得	レポート提出	スクーリング 受講
心理学概論 A・B	RorSR	○		
福祉心理学	RorSR	○		
社会・集団・家族心理学 A（社会・集団心理学）	RorSR	○		
教育・学校心理学 B（学校心理学）またはカウンセリングⅡまたは特講・福祉心理学 17（認知行動療法）	RorSR S	○		
心理学実験ⅠA・ⅠB	SR	○		
心理学実験ⅡA・ⅡB	SR			○
心理学研究法 A	RorSR		○	

※2017 年度以前入学者は「心理学概論」「福祉心理学」「社会心理学」「人間関係論」「教育・学校心理学 B（学校心理学）またはカウンセリングⅡまたは特講・福祉心理学 4（スクール・カウンセリング）または特講・福祉心理学 17（認知行動療法）」「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」「心理学研究法Ⅰ」となります。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	事例研究の方法	事例研究の進め方、書き方
2	問題構造の理解	問題の同定と悪循環の構造
3	行動の理解	どのような刺激がどのような反応を誘発しているのか
4	認知の理解	問題はどのように解釈されているのか
5	環境の理解	問題は環境にどのように影響されているのか
6	介入目標の設定	各事例での問題解決とはどのようなことだろうか
7	介入計画の策定	介入方略の検討
8	介入リスクの検討	介入によるバランスの崩れやリスクの検討

■講義の進め方

事例に対するスーパービジョンを希望の方は、事前（スクーリング申込締切日まで）に事例レポートを提出してください。事例提供者から事例の説明をしていただき、それに対する質疑応答で演習が進行します。

一連の流れの中で、スーパーバイザー（中村恵子）が事例の読み取りと併せて支援方針を提案し、ケース・フォーミュレーションの作成について解説します。

■スクーリング 評価基準

演習への積極的参加、質問や発言を評価します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

事例検討に際し、問題解決に求められるものはどんなことなのか自分なりに学びたいことを考え、整理しておいてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

事例検討の前後での支援観の変化について考え、整理してください。

レポート学習

■在宅学習 8 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	事例レポート①	クライアントの属性	属性としてクライアントの特徴を整理する
2	事例レポート②	主訴	問題に対するクライアントの主観的解釈を整理・理解する
3	事例レポート③	事例の概要	事例の全体像を整理する
4	事例レポート④	生育歴・生活歴	クライアントの問題を縦断的に理解する
5	成果レポート①	問題の概要	クライアントの問題について本質を抽出する
6	成果レポート②	支援者が困っている問題	支援者が困っている問題を整理する
7	成果レポート③	生物心理社会モデルでのアセスメント	クライアントの問題を生物心理社会（バイオサイコソーシャル）モデルを用いて整理する
8	成果レポート④	支援方針	支援方針を検討する

■レポート課題

1 単位め	（スクーリング事前課題）＝事例レポート 「これまでの支援経験もしくは人生経験の中で、問題解決にいたらず、もてあました事例」 ＜事例の書式（いずれもわかる範囲で）＞ 1.クライアントの属性（性別、年齢、職業、所属など） 2.主訴 3.問題の概要（どのような問題がどのように起きて現在の問題状況にいたっているのか） 4.生育歴もしくは生活歴 5.事例提供者の立場（老人施設職員など） 6.事例提供者が困っていること 7.その他必要と思われる情報 ＜事例提供者＞提出された事例レポートを授業で取りあげる場合は、担当教員がプライバシー保護のために加工し、抽象化を加え、講義資料を作成します。 ＜事例検討参加者＞1 単位めアドバイスを参照し作成してください。
2 単位め	（スクーリング事後課題）＝成果レポート 1.演習で検討された事例の概要 2.問題の概要 3.事例検討によって明らかにされたこと 4.事例検討による展開の変容の可能性 5.事例検討に参加した自分自身の気づき

※1 単位めレポートは添削指導を行いません。スクーリング申込締切日までにメール ua@tfu.ac.jp へて提出してください。

※2 単位めレポートは、通常のレポート形式を郵送してください。添削指導を行い返却します。

■アドバイス

事前に事例レポートを提出していただき、その中からグループスーパービジョンで検討する事例を選抜します。そのため、事例は公表を前提にできるものを選択して書式にしたがって記述してください。

また、検討事例に選抜された事例提供者には事前に連絡し、プライバシーが保護され、かつ問題が理解できるように加筆修正が依頼されますのでご協力をお願いいたします。

【1 単位めアドバイス】

事例レポートの作成について

(1) 事例提供者

これまで取り組んできた事例のうち、解決が困難で、あらためて事例の読み解きや支援方針を作成してみたいと思われるものをレポートしてください。内容は、わかる範囲での記述でかまいません。

事例の提出には倫理的配慮が求められますので、職場の許可を受け、実名を避けて A、B など記号を用いて記述してください。

(2) 事例検討参加者

これまでの人生で出会った、解決が困難であらためて事例の読み解きや支援方針を作成してみたいと思われるものをレポートしてください。内容は、わかる範囲での記述でかまいません。

【2 単位めアドバイス】

演習では、事例についての詳細なケース検討を行います。支援観や支援力に生じる変容に注目し、その変容を記述してください。

また、問題解決力錬成のために、事例を整理してまとめてください。